【神奈川県】

川崎市立川崎高等学校

福祉ボランティア部

高校生ボランティア・アワード
２０２０

5EC3364FF33872DEAA99

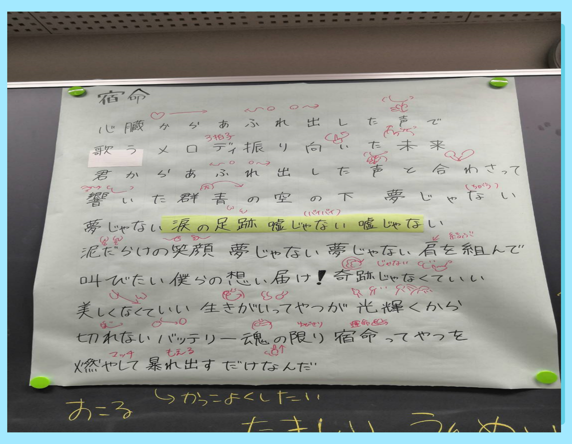
「手話を通して」

活動概要

私たち福祉ボランティア部は、手話を通じて歌を伝えるという活動をしています。
「手話ソング」という歌の歌詞を手話で表現したものを年に一回の文化祭と高齢者施設で発表を行っています。
毎年発表する歌は違います。その年流行した曲やなじみの歌など手話に親しみやすいような歌を選んでいます。
一昨年の文化祭では、「やってみよう」という歌詞が多く流れる曲を選び全校生徒でその歌詞の部分を手話で一緒にやってみよう！！ということも行いました。
楽しく手話を知ってもらうような活動を心がけています。

また、ボランティア活動として高齢者施設へ手話ソングの発表を年２～３回ほど行っています。高齢者の方で親しみやすい歌「上を向いて歩こう」「川の流れのように」などの歌を発表しています。発表を見るだけではなく、手話での挨拶なども紹介し実践していただくことでより興味を持っていただき、「楽しかった、また楽しみにしている。」など言っていただけることもあります。

7%84%a1%e6%96%99&sl



「音がなくても伝わる手話を」

聞こえるからこそできる表現を考える

そもそも「手話」というのは、手の位置，手の形，手の動きなどを組み合わせて意味を伝える表意記号です。主に聴覚や視覚に障害を抱えている方が使用しているコミュニケーション方法です。
そう考えた際に、私たちが行うべき手話とは何か。それは、音がなくても歌が伝わる手話だということです。音がなくても伝わる手話とは、歌のリズム感や感情などを表情や手話の速さや動きで表現したものだと考えています。発表する相手がどんな方でもこの「音がなくても伝わる手話」を行えるよう心がけています。
私たちにその手話を教えてくださっているコーチは聴覚に障害があり手話を使用しています。私たちに手話を形だけでなく気持ちの表現の面でも手話を教えてくださっています。コーチは私たちが選んでいる曲を聞いたことがなく歌詞だけを見て教えてくださいます。そんなコーチのためにも聞こえている自分たちだからこそできる表現を考え手話に表現できるよう心がけています。
「音がなくても伝わる手話」
「聞こえるからできる表現を手話で表す」

「今の私たちにできること少しずつ」

施設への発表

ボランティア活動

出来ないこと

出来ること

フェースシールドの着用

自粛期間中コロナの恐ろしさなどについてを学び、学校へ」来ることができてもコロナの感染を考えやりたいことができない等ありました。部活動もその一つでした。
しかし、できないことばかりを見ていても何も起こりません。できることから少しずつ活動し進んでいくことが大切だと学びました。
だから私たちは、少しでもできることを考え次の文化祭でその成果が発表できるようにしたいです。
今年度は行くことが出来なかった高齢者施設への発表もできるようになってればと思います。

「手話の理解を広める」　～手話を言語に～

手話を日常的に使えるようにしたいです。世界では手話で会話をするカフェなどが増えつつあります。まずは校内で手話を知ってもらえる活動をしていきたいです。手話の良いところはたくさんあります。
１つ目、手話で会話をすれば周りに話を聞かれることなく会話することができます。本来の使い方ではないかもしれませんが、面白いという気持ちから手話に興味を持ってもらえると思います。

２つ目は、高度な技術がなくても人助けができます。手話を知っていれば困っている聴覚障害者の方に街中で会った際に手話で助けられるかもしれません。
このように手話を知っていれば良いことがあるということを周りに伝え当たり前に手話が飛び交う将来を夢見ています。

活動団体プロフィール

現在は、２年生２名１年生４名で活動しています。
福祉科ができた当時からあり今年で２３年目となりました。
福祉科５名、普通科１名、計６名で活動しています。
福祉科からの部員も多いですが、他の学科からの入部もあります。